

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293000111		
法人名	社会福祉法人 教友会		
事業所名	やすらぎメゾン・尾車		
所在地	千葉県君津市尾車648-2		
自己評価作成日	平成29年3月16日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・君津市内では、一番新しいグループホームで、豊かな自然に囲まれた静かな環境にあります。所在地のある尾車自治会は、組織がしっかりとしていて、地区の伝統行事を含む年間行事等が決まっています。その中で、お祭り等のイベントに参加させていただいたり、こちらの行事にご招待したりと、法人設立以来25年間おつきあいさせていただいています。
 ・ご利用者がユニットを1グループとし、スタッフがその方のできないところをサポートし、それぞれの役割を持ち、協力しながら生活をしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング		
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13マコーラ第一ビル6階604		
訪問調査日	平成29年3月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は自然に囲まれた複合施設である。利用者は健康管理の為に、散歩や運動を行っている。畑作業を職員は利用者と一緒にやっている。地域のイベントに参加する事が多い。施設では、レクリエーションや行事を行い、地域の人を招待している。運営推進会議を行っている。高齢者支援課や社会福祉協議会、家族などの参加で行われ、現状報告、意見交換が行われている。避難訓練を年2回行い、土砂災害の訓練と、夜間に備えた訓練を行い、いざという時に備えている。複合施設と協力体制を取る事が出来安心である。医療は主治医や看護師、訪問歯科と連携を図っている。食事は収穫した野菜を使い、栄養士のアドバイスを受けて、献立を考えた食事が提供されている。利用者には機能訓練を兼ねた行事を行い、楽しい毎日が過ごせる様に支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念や目標については、入職時に説明している	管理者・職員は理念を共有し、実践につなげている。日々利用者に関わる際に意識して取り組んでいる。目標、家庭的な温かみのあるグループホームを目指し、前進している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が自治会の会議や伝統的な行事に参加したり、ご利用者が参加できるような行事に参加したりしている。また、スタッフの中にご近所の方が2名ほどいる。	長年のお付き合いのある自治会は、組織的に行っている。管理者は会議や行事に参加している。高齢者が参加できる付き合いがある。近所の人から畑で作った野菜の差し入れがある。イベントに参加してもらおう。職員が近所から来ている。常に地域住民との交流は積極的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方達に認知症についての勉強会を開いたり、定期的に広報誌を発行したり、運営推進会議でも自治会の方に認知症について理解していただく機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、年に1回～2回程度しか開催できていないが、地域の方、行政担当者、ご利用者とご家族の参加があり、会議では、現状報告を行い、意見交換し、行政を交え話し合う機会となっている。	運営推進会議は年に2回行われている。高齢者支援課、社会福祉協議会、自治会、家族などで行われ、現状報告や意見交換をしている。併設の施設と合同で行い、これからの運営やサービスの向上に活かしたいと考えている。認知症への理解と支援を得る為に働きかけを行いたいと考えている。	参加メンバーは充実されているので、現在年2回の運営推進会議を、年4回・3か月に1回を目標にお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の参加があり、事業所の状況を報告し、理解、把握していただき、ご意見を頂く等協力関係にある。	市の担当者には運営推進会議には参加して頂いている。市とは情報を共有し、協力関係を作り、認知症のケアの実際を理解して頂き、様々な機会を通じ関わりを持ちたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の周囲が山に囲まれているため、迷って山に入ると危険な為、施錠している。また、帰宅願望があるご利用者の家族からも施錠してほしいと頼まれている。	利用者の安全安心の為に、施錠をしている。施設内は広く、自由に動く事が出来る。帰宅願望の利用者が外に出て行く家族に施錠してほしいと言われている。難しい所である。安全を確保しながら、職員の見守り方法を徹底しながら、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関しての研修に参加し、同敷地内の同法人の福祉施設と合同で研修を行いたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、該当者がいないが、同敷地内の同法人の福祉施設があるので、合同で研修等を行いたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来て頂き説明を行っている。契約時には、十分に説明し、不安や疑問、意向を聞き、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置があるが、利用されている方はいない。面会時等にご家族とコミュニケーションを図り、毎日の日々の中で一人一人の思いを汲み取るように努めている。	意見箱は設置されている。家族が訪問された時に意見や要望を話してくれる。利用者は介護度1の方が多く、自分の意見や要望を話してくれる。家族アンケート調査でも良い点や悪い点を書いて頂いている。利用者家族の意見は大切に、運営やサービスに反映される。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは、職員会議等で仕事場への要望や意見を提案してもらう。また、年度末等で個人面接を行う時に個人の意見や提案をだしてもらう機会がある。	職員会議を1か月に1回～2か月に1回行っている。会議では職員の意見や要望をしっかり受け止め、皆で共有し、運営に取り入れている。年末に個人面談を行い、仕事の不満等意見を聞いている。職員の表情で判断して、仕事への定着を考えている。向上心を以て働けるように心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新賃金制度について、代表者、管理者等の幹部職員で定期的に勉強会を行い、[人事評価+年功賃金]の新制度を試行する職員個々が目標をしっかりともち、それぞれの"頑張り"を公平に評価するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記の評価制度の充実を計り、職員一人一人を適正に評価するようにしている。法人の内部研修を企画したり、外部研修にも極力、参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症家族の会等地域の会に積極的に参加し、ネットワークの強化に努めている。また、勉強会、研修会にも参加するとともに、相互訪問等を活発に行い、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族やご本人に見学に来て頂いて、当グループホームや介護保険等に関して、疑問に思うこと、不安な事やご要望などを聞き、安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご自宅の様子、これまでの生活歴、不安に思う事、疑問に思う事、要望等を十分に聞き取り、入居後も日常の様子をご家族に報告し、相談したりと信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向、思いを把握し、納得していただいて、安心してサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者から何かを教わったり、励ましあったりといった関係を築き、ご利用者と一緒に生活するという意識をもつようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等でご家族にご本人の様子を話し、一緒にご本人について話し合い、相談し合い、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人や知人などの面会は、お部屋でゆっくり過ごしていただいている。また、ご家族、知人や友人から電話が本人宛にくると事前に連絡があった場合は、ご本人につないでいる。また、ハガキや手紙等もご家族に確認後、ご本人に渡し、関係が途切れないように支援に努めている。	親戚、友人、知人など訪問してくれる。馴染みの美容院に行く。手紙や電話が来る。職員はその都度対応している。地域や馴染みの人達と継続的な交流が出来るように、職員は働きかけている。これまで培ってきた人間関係や社会との関係を大切に、裁ち切らないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の人間関係を把握し、トラブルにならないように職員が仲介し、また、ご利用者一人一人に合った役割を決め、お互いに支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、退去された方がどなたもないが、今後、退去された方がいたら、その後もご家族の相談や支援をできるだけするように努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者との普段の関わりの中で、個人個人の思いや、ご希望を聞き、なるべくご本人のご希望に合う生活をしていただけるように支援している。	一人ひとりの思いや希望を聞いている。共同生活なので、出来る事と出来ない事がある。食事で嫌いな物は避け、好みの物を出すようにしている。職員は利用者の思いを叶えるように心掛けている。言葉に出せない利用者は日々の行動や表情から汲み取り、支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の面談時にご本人、ご家族にお話を聞いたり、居宅のケアマネの方がついている場合には、ケアマネからもそれまでのサービス利用状況等の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームの一日のおおまかな日課は決まっているが、お声かけして、ご本人の気が乗らない場合は、ご本人の好きなように過ごしていただき、血圧や顔色、普段と違う行動など、小さな変化にも気づけるような支援をしている。また、何か変化があれば、記録や申し送りをするようにし、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で、ご家族、ご本人、管理者と話し合い、ご家族、ご本人の要望、意向を伺い、介護計画を作成している。ご家族、ご本人へ説明し、理解していただいている。	担当者会議を行い、本人、家族、関係者と話し合いを行い、より良く暮らしを続ける為に必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。認知症が進んだ場合は家族に伝え、ケアマネや看護師のアドバイスが必要になる。職員間の情報の共有を徹底し、個別の記録を基に見直しを行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の出来事を個人のケース記録に、具体的に支援の内容と様子を記入している。日々気づいた事があれば、職員が申し送りノートに記入し、必ず、業務前に読み、サインをする事になっている。会議などで、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人、同敷地内に特養があり、ご本人の介護度が進み、グループホームでは対応が難しくなった場合などは、特養のご利用も視野に入れて検討できる。また、同敷地内の障害者施設や特養の看護師や栄養士などの支援も得られるような体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事のお祭り、ソフトボール大会の応援、自治会で毎週行っている体操に参加させていただいたり、交流を深めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご利用者のカルテを協力医に作っていただき、往診・通院をしている。協力医とご利用者の身体的情報を常に共有しているため、速やかな医療を受けることができる。ご本人、ご家族の希望の病院がある場合は、ご家族対応とし、状態を往診時に報告している。	併設の施設の協力医が利用者の往診をしてくれる。訪問歯科と連携している。家族の掛り付け医の眼科や精神科は、家族が対応している。通院後は受診結果の情報を共有している。看護師と、連携を図り支援を行っている。医師、看護師、通院介助を行い、複数の医療機関と関係を密にし、安心した医療を受ける事が出来る。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化、気が付いたことを看護師に報告し、助言、処置を受けている。同じ敷地内にご利用者の情報を共有している看護師がいるので、GHの看護師が不在の場合でも相談や看護を受けることができる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はGHで記録している看護ファイルを持参し、病院関係者と情報を共有している。入院中は面会、電話で情報を交換し連携をとっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、ご本人、ご家族に説明をしている。重度化した場合は、同じ敷地内にある特養と協力しているため、連携を図りながら、主治医、ご家族、GH職員で話し合いを行い、方針を決めていく。	契約時に家族に説明を行っている。重度化した場合は併設の特養と連携し、対応している。本人・家族・主治医と関係者と一緒に話し合う機会を作り、安心と納得が得られる様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、対応できる体制にある。消防署による救命講習会を定期的に行い、繰り返し学ぶことで、緊急時に焦らず対応できるようにしていきたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は洪水による災害想定訓練1回と、夜間想定訓練1回を行っている。ご利用者も参加している。今後もいろいろな災害を想定し、訓練をする必要がある。	年2回の訓練を行っている。水が溜まり易い土砂災害の訓練と、夜間を想定した訓練を行った。避難は併設の施設の3階に逃げる。地域の避難場所にもなっている。防災担当者があり、安心である。色々な訓練を行い、備える必要がある。備蓄品は施設に備えている。夜は人数が少ない為、複合施設との連携を考えている。	現在年2回の災害訓練が行われているが、出来れば年3回行い、特に夜間訓練を重点にされ、検討される事をお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の今まで送られてきた人生に敬意をはらい、誇りを大切にし、職員は言葉使い、態度に気を付けている。	利用者の尊厳と権利を守っている。誇りやプライバシーを損ねないように取り組んでいる。職員はさり気ない言葉掛けを行い、対応するように心掛けている。馴れ合いの中の会話では、年長者として敬意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時間、食事内容、外出等、施設で対応できることは、希望に添えるよう努力している。いろいろな場面で、ご本人が選択、自己決定できる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は起きてこられたご利用者のタイミングで摂っていただき、体操、散歩等大まかな流れは決まっているが仕事をした方には、何かしらを提供し、のんびりとされたい方はのんびりとしていただき、希望に合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で洋服を選んで着てこられる方が多いので「素敵ですね」など声をかけ、お洒落に関心をもっていただいている。難しい方には職員と一緒に選んでいる。化粧、ネイル等、レクに取り入れ、喜んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	散歩時にフキノトウを採ったり、梅を摘んで梅干しを作ったり季節の物をお出ししている。メニューは決まっておらず、希望を取り入れている。好き嫌いが多くご利用者が数名いるため、できる限り一人一人の好みに応じている。食事準備、調理等できるご利用者には、手伝っていただいている。	食事は職員が作り、朝食は夜勤明けの職員が作る。栄養士のアドバイスを受け、1週間の献立を作る。食事は手作りで季節の食材を使い、美味しい食事を提供している。利用者の好みに合わせ、工夫して調理している。利用者は、食材を刻んだり、食事の準備や調理などを手伝っている。外食は敬老の日や誕生日会でハンバーグやパフェを食べる。食事は楽しみの一つ。食を通じて色々な取り組みを行い、喜びや楽しみになっている。利用者の好き嫌いをなくすため、調理に時間をかけ提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者に合わせた食事形態、メニュー等栄養士のアドバイスをもらっている。食欲不振が続いた時などは、おじややおにぎり等工夫して摂取できるよう努めている。水分量は1日1500cc以上を目標に接種できるよう、声掛け等支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕、個々にあった口腔ケアを行っている。その他の時間は本人が磨きたいときに自由に行っていたりしている。食後直ぐに横になられてしまうご利用者は職員が介助しながら口腔内に食べカスがないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	病院からそのまま入所された方は、オムツからご自分でトイレに行かれるまでになっています。排せつ表を見て排せつの間隔が長い方には声掛けし対応している。失敗のあった時はシャワー浴で対応している。	自立に向け、トイレでの排泄が出来るように個別の声掛けを行っている。職員は排泄表を確認しながら、支援を行っている。安心の為にリハビリパンツやパットを使用している。便秘にならないように散歩や体操を行い、又、乳製品を摂り、腸の働きを良くするように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日発酵食品や乳酸菌飲料を提供している。毎日体操・散歩を行っているが、参加されない方は運動不足にならないように、身体を動かしていただく機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員が清潔を保つために入浴できるよう曜日を決め、週2日提供しているが、希望があれば日数や曜日等変え、柔軟に対応している。入浴時間は本人の希望に合わせ、1人ずつゆっくりと入浴していただいている。乾燥の時期には入浴剤を入れ保湿を保ち、リラックス効果をえている。	入浴は週に2回、午後から入る事が出来る。毎日入りたい利用者もいる。好みに合わせ個別の支援が出来るよう心掛けている。入浴剤を使用し、リラックス効果や、体調を整える為の支援を行っている。利用者は常に清潔保持を保ち、毎日が気持ち良く過ごせるように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に休息できるよう支援している。1人1人に合わせた空調、照明設定にし、安眠できるよう見守り、乾燥時には巡回の際、各居室に水を霧吹きし保湿、インフルエンザの予防をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容がわかるよう、表・ファイルを作り、直ぐに確認ができるようにしている。処方の変更があった場合は情報を共有し、ご利用者の状態観察をする。往診の際、主治医に報告をする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った役割を見つけ出し、無理させすぎないよう、本人が役に立っているという、自信をもって、楽しく過ごしていただけるよう支援している。嗜好品、楽しみごとは、危険のないよう、できるだけ希望に沿って提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望のあるご利用者には、気分転換、健康維持のため、ほぼ毎日散歩をしていただいている。毎週日曜日、グループ外出で、買い物や、喫茶店等にドライブに出かけている。できる限り外出の機会を作るよう努力している。	利用者は散歩に出かける。毎週日曜日に外出をする。ドライブ、喫茶店でお茶を飲む。畑作業を行い、ジャガイモ、キュウリなどを収穫した。外に出る事は気分転換やストレス発散になり、利用者の意欲や自立を保つ為に大切であり、地域の人や季節、その時々状況に応じて支援を行っている。	外出を希望しない利用者の為に、室内廊下の歩行訓練や、ごく簡単な身体の体操を企画して、毎日午前中1回、午後1回やる事で、身体能力の低下を抑える事になると思うので、お願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは預かっているが、ほとんどの方が自己管理できない為、欲しいものがあるときに、一緒に買い物に行き、職員とレジを通っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話かけていただいている。家族、友人からかかってきた場合も、自由にお話いただいている。手紙はまだ書いたことがないので、今後絵手紙等、提供していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは清潔を保ち、ご利用者と一緒に制作した作品、写真等飾っている。散歩で摘んできた花等、ご利用者に飾っていただいている。空気清浄、加湿器の設置。	廊下はバリアフリーで、天井は吹き抜けで日差しが入り明るい。清潔感があり気持ちが良い。塗り絵や切り絵、花、職員の写真が飾られ、リビングでは利用者がテレビや会話を楽しんでいる。ユニットはオレンジ色とグリーン色に色分けされている。トイレは広く、洗面台はきれいである。季節感や開放感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人が好きの方、仲間でお話されている方、それぞれに過ごされています。ご利用者同士、トラブルにならないよう見守り、支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ダンス、ベットは備え付けになっているが、使用については、本人、家族の希望に任せている。落ち着いて過ごせるよう、居室内は、家具、仏具等本人の好きなように使っていただいている。	居室は備え付けのダンス、ベッドがあり、利用者の好みの物を飾っている。日中はリビングで過ごす利用者が多い。窓があり、換気が出る。自宅と環境のギャップを感じさせない様に心掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全て段差はなく、共同スペースでは不要なものは取り除いている。居室では、家具の配置を工夫し、一人で室内を歩けるようにしている。		